

令和3年度 第1回 大阪府立茨田高等学校 学校運営協議会 (議事録)

令和3年6月17日(木) 15:30～

大阪府立茨田高等学校 会議室

出席者(敬称略): 藤原・山下・松井・西本(本校)

川村・渡邊・中出・早坂(協議委員) 【欠席: 寺野・綿世】

記録: 西本

1 挨拶

2 茨田高校より

* 自己紹介(協議委員・教員)

* 学校経営計画及び本校の現状についての説明(校長)

昨年中、遅刻欠席対策(学習への不安をなくすこと)、教員の言葉の重要性について、教員間の意見交換の場を確保すること、リモート授業等についての対応などご意見をいただいていた。

遅刻欠席の減少については、目標には達しなかったが、効果は実感できている。わかりやすい授業に今後も取り組む。

リモート授業等については、可能な限りの対応を行っている。新型コロナウイルスが不安で登校が難しい生徒に対して GoogleClassroom を活用した対応を行っている。

転退学者の減には、引き続き力を入れていきたい。現在の在籍数 356 名。

生徒総数は減っているものの、さまざまフォローが必要になる生徒が多い中で教員数が減員されており、教員の負担は増加している。そのような状況においても一生懸命対応している。

進路希望については、例年と同じく就職希望者が多い傾向である。コロナ禍において厳しい情勢が続くが、今年も力を入れていく。進学者に対しても講習等の対応を実施していく。

* いじめに関するアンケート結果

学年が上がる毎に数値は下がっていく傾向がみられる。

アンケートの記述についても、対応した結果、現状重大な問題はないと認識している。

* 新カリキュラムの説明

文系コースとコミュニケーションコースを実施。

コミュニケーションコースに関して、コース目標などを整理してそれに対応したカリキュラムを作成した。新たに「実演表現」という科目を立案した。

* 教科書選定について

教科書選定作業始まっている。

新課程に向けたデジタル教材が各社から出ている。各教科で検討が進んでいる。

(協議委員)

- * 学習に自信のない生徒にどうアプローチするか。ICT がすべてではなく、生徒に寄り添う指導がどれだけできるかが重要。
 - ICT は ICT で「できる・できない」の差もあるため、自習室などで生徒に寄り添う指導を中心としていく。
- * いじめアンケートについて、問いを茨田高校に合ったものにする必要はあるのはいいか。
- * 遅刻欠席対策について具体的にどのようなことを行っているか。
 - 罰には効果はないのではないか。

(協議委員)

- * 遅刻指導については、「遅刻をしないこと」が得になる方策を考えるのもひとつである。
 - 基本的には遅刻の原因を個別に話し、指導していく対話ではないかと考える。
 - 採用する側としては、遅刻しない人の方が採用しやすい。
 - 遅刻をしないことに対する動機づけの工夫を。
- * ICT での授業などに対する課題や、実施の際の注意点などの情報蓄積は進んでいるのか。教員の ICT の使用スキルは、使うことで確実に向上する。
- * コミュニケーションコース等、何か協力できればしていきます。
 - コミュニケーション総合は再来年 1 年間は実施がない予定か。
- * いじめに関してはやや過激な言葉も出ている。対応はしっかりとできているか。

(協議委員)

- * 遅刻指導に関しては、全体への指導ではなく個別の指導が必要である。
 - 教員気持ち意思が相手に伝わっているかの
- * いじめアンケートについては、記述や数値の真意を分析することが大前提となる。
 - 状況によっては、学校だけでなく、専門家の見立ても必要になってくる。
- * 学力の向上に関しては、個々の教員の取組みを具体的に問いかけることも効果を増大させる。また、当たり前のことができることも褒める。

<休憩開始>

(協議委員) コミュニケーション教育・キャリア教育・人権教育などの絡み

生徒の自尊感情・自己肯定感を高める取組みを全教員ができるようになるための取組みを行っているのか。

<休憩終了>

3 協議（テーマ「茨田高校の未来への展望について」

（議長）

本校の課題に具体的にどう対応していくのか。

（協議委員）

コロナの関係もあり、去年は体育祭や修学旅行も中止となり、今年も体育祭が中止となり、「何のために学校へ行っているのか」とこぼす生徒の声もある。勉強することも大事だが、行事など「何かがんばれること」が必要なのかなと感じる。

（協議委員）ウィズコロナを前提とした学校運営（行事運営など）が必要になるのではないかな。

（協議委員）オリンピック後になにかガイドラインに変化があるのではないかな。

（協議委員）ワクチン接種の影響が大きいのではないかな。中学校の職員の接種もつい先日実施した。

未来への展望

（協議委員）「生徒たちに何をしてあげたいか」を漠然とした状態でおいておかない。

それに向けて教員一人ひとりが具体的に何をするのかを明確にする必要がある。

何か徹底的にやる共通の具体的な取組みを明確にするとよいかなと思います。

（協議委員）さまざまな指導に動機づけを。いろんなきっかけを学校生活の中に仕掛けておくことは重要になってくる。

（協議委員）

わかりやすい授業、声掛け、ICTの活用などについて、「これが正解」と明らかなことはない、継続することこそが未来を拓くのではないかな。（教育は「生徒との根性比べ」）

4 謝辞

第2回予定 令和3年度11月4日（木） 15:30～